

令和 2 年度

「運営に関する計画・自己評価(中間評価)」

大阪市立難波中学校

令和 2 年 10 月

学校教育目標

- 豊かな心をもち、自らの人生を切り拓いていける生徒を育成する。
- 教職員集団がそれぞれの能力を発揮し、連携・協力し、子どもたちを最大限に成長させる教育活動を追求する。
- 一人ひとりの生徒を大切にする教育を進め、人権尊重の精神にあふれる学校づくりを推進する。人権教育活動に力を入れる地域性や歴史・伝統等の特色を生かし、学校全体の人権感覚を高める。

子ども像(校訓) 自律・協力・創造

- 自ら考え、正しく判断し、行動できる子ども
- 人を思いやる優しい心で、お互いの人権を尊重し、社会から必要とされる、求められる子ども
- 心身を鍛え、努力を積み重ねることで、新しい発想や考え方、チャレンジ精神を持つ子ども

大阪市教育振興基本計画：最重要目標

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 教科指導の方法を工夫・改善し、ICT 機器の活用等を通して、授業の質を高め、子ども一人ひとりの状況に応じた学力を向上させる。
- 子どもの学習習慣の確立に向けて、個に応じた教育の充実を図る。また、小中の連携をさらに強化する。
- 規則正しい生活習慣を身につけ、健康や体力の保持・増進について関心を高め、たくましく生きる基礎体力づくりをめざす。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 教育活動のあらゆる場面で自尊感情を高めるとともに、違いを認めあい、他者理解ができる確かな人権感覚のある生徒の育成をめざす。
- 子どもたちが良好な人間関係を構築し、自己実現できる学級・学年集団、学校づくりを推進する。
- 学校・家庭・地域が防災・減災教育を始めとする安全教育などで連携し、強固な教育コミュニティの形成に力を注ぐ。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 安全・安心な学校づくりをめざして、全教職員が連携して問題行動を未然に防止する指導に力を入れて取り組み、学校の規律を維持している。また、豊かな心を育む教育を推進し、他者を思いやる優しい心の育成に努めている。さらに、学校の教育活動のあらゆる場面で生徒に自信を持たせるよう取り組み、自尊感情を高めるようにも努めている。しかし、日本語の指導や配慮を要する生徒が増えており、個に応じた支援をさらに充実させていかなければならない状況が年々厳しさを増している。
- 学習面では、ICT 機器を活用し、生徒の関心・興味を高めつつ、個に応じた学習を進めているが、学習習慣の定着がはかりきれしていない。全国学力・学習状況調査や中学校チャレンジテストにおいて、本校の各項目の平均正答率は大阪市の平均に及ばず、学力の向上が喫緊の課題である。
- また、起床時間や就寝時間など基本的な生活習慣においても課題があり、さらに家庭と連携しながら、生活のリズムを整え、健康の保持・体力の向上もはかっていかなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて組織的に対応している割合を 100%にする。

H29	100%	H31	100%	R1	100%	R2	%
-----	------	-----	------	----	------	----	---

- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を毎年、前年度より減少させる。

H29	2 人	H31	1 人	R1	2 人	R2	%
-----	-----	-----	-----	----	-----	----	---

- 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。

H29	4.3%	H31	7.9%	R1	11.4%	R2	%
-----	------	-----	------	----	-------	----	---

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」^①、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」^②の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 75%以上に維持する。

①	H29	89.0%	H31	91.8%	R1	93.9%	R2	%
②	H29	90.2%	H31	91.1%	R1	87.1%	R2	%

- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

R2	%
----	---

- 令和 3 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「自分の悩みを相談できる人がある・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者・生徒の割合をそれぞれ 90%以上にする。

R2	%
----	---

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)

1 年生	H28	86.6	R2	
------	-----	------	----	--

2 年生	H28	88.0	R2	
3 年生	H28	88.3	R2	実施せず

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 4 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 28 年度より 10 ポイント減少させる。

1 年生	H28	40.0	R2	
2 年生	H28	43.1	R2	
3 年生	H28	50.8	R2	実施せず

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を、いずれの学年も平成 28 年度より 5 ポイント増加させる。

1 年生	H28	18.3	R2	
2 年生	H28	5.2	R2	
3 年生	H28	3.2	R2	実施せず

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を平成 28 年度より増加させる。

H28	53.4%	R2	%
-----	-------	----	---

- 令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を、平成 28 年度より 7 ポイント向上させる。

男子	H28	38.68	R2	
女子	H28	45.53	R2	

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活をしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70%以上に維持する。

H29	72.1%	H31	63.2%	R1	80.9%	R2	%
-----	-------	-----	-------	----	-------	----	---

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%以上にする。

R2	%
----	---

- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

R2	%
----	---

- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

R1	2 人	R2	人
----	-----	----	---

- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

R1	1.70%	R2	%
----	-------	----	---

学校園の年度目標

- 令和2年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。

R2	%
----	---

- 令和2年度末の保護者・生徒アンケートにおける「悩み事ができたときに相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者の割合を65%以上、生徒の割合を80%以上にする。

保護者	R2	%	生徒	R2	%
-----	----	---	----	----	---

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

1年生	3教科	R1		R2	
2年生	3教科	R1	0.87	R2	
3年生	5教科	R1	0.82	R2	実施せず

- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

1年生	3教科	R1		R2	
2年生	3教科	R1	34.0	R2	
3年生	5教科	R1	46.7	R2	実施せず

- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。

1年生	3教科	R1		R2	
2年生	3教科	R1	17.0	R2	
3年生	5教科	R1	22.2	R2	実施せず

- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

R1	70.1%	R2	81.3%
----	-------	----	-------

- 体育の授業で、全身運動や柔軟性を高める活動を毎時間行い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし」、「長座体前屈」で大阪市平均に近づけ、体力合計点を向上させる。※()内は平均

上体起こし	男子	R1	24.67(27.39)	R2	
	女子	R1	24.22(24.15)	R2	
長座体前屈	男子	R1	37.67(41.41)	R2	
	女子	R1	43.50(45.67)	R2	
体力合計点	男子	R1	32.71(41.04)	R2	
	女子	R1	42.91(50.13)	R2	

学校の年度目標

- 新体力テストを実施し、昨年度の体力合計点を維持・向上させる。

体力合計点	男子	R1	32.71	R2	
	女子	R1	42.91	R2	

- 専門的な知識を持った講師を外部から招くか、特別授業の監修を受け、食育と保健関係の特別授業を年 3 回以上実施する。

R2	
----	--

- 歯磨き指導に力を入れ、令和 2 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「毎日歯磨きをしている」の項目について、肯定的な回答を 60%以上にする。

R2		%
----	--	---

- 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活をしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70%以上にする。

R2		%
----	--	---

3 本年度の自己評価結果の総括

-

大阪市立難波中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%以上にする。 R2 % ● 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 R2 % ● 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 R1 2 人 R2 人 ● 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 R1 1.70% R2 % <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」、「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 R2 % ● 令和 2 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「悩み事ができたときに相談できる人がいる・できている」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える保護者の割合を 65%以上、生徒の割合を 80%以上にする。 保護者 R2 % 生徒 R2 % 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(いじめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の様子をじっくり聞ける機会を定期的に設けながら、主任会や職員会議で生徒の情報交換や道徳・人権学習の取組みの成果を確認する。また、対応が起こればすぐに情報共有を行い、連携していじめの未然防止や早期対応に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年に 2 回以上の教育相談や、折に触れて個人懇談を行い、生徒一人ひとりが抱える問題の解決に努める。週末には学級で学校生活を振り返るアンケートを行う。いじめに関するアンケートも 	B

<p>生徒が書きやすい雰囲気作りをした上で、学期に2回以上実施し、いじめの早期発見・早期解決に努める。また、道徳・人権学習を生徒の発達段階に合わせて系統的・計画的にいじめ防止の学習を実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(暴力行為)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 暴力行為が発生すれば、教職員全員が協力し、被害を最小に抑えるよう迅速に対応する。さらに、必要に応じて外部の関係諸機関とも連携し、情報交換をしながら緊急時への対応ができるような体制を作る。登下校、休み時間における校内の生徒の様子を見守り、授業への入り込み等を強化し、協力体制を築く。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度当初に学校生活に関する申し合わせ事項で暴力行為が起きた際の対応について共通認識できる校内研修を実施し、いざという時の教職員間の協力体制を確認する。登下校、休み時間における校内巡視を必要に応じて行うことで暴力行為の未然防止を状況に応じて行う。また、協働員連絡会や要対協、こども相談センター、こどもサポートネットなどの関係諸機関との連携を定期的の実施し、バックアップ体制を作る。 	C
<p>取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(不登校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校生に対する定期的な家庭訪問を行う。対応に際しては、必ずしも登校を前提とせず、進路を見据えて、生徒が社会的に自立できることを念頭に置くなど、不登校生の生徒理解や考え方に関する研修を実施する。スクールカウンセラー、学校元気アップ、こどもサポートネット、フリースクール等民間機関など、生徒に応じた様々な関係諸機関と連携し、出席や評価に関して安心感を持てる体制を作る。また、不登校生徒が登校した際には温かく迎え、必要に応じて教室外の部屋を整備することを検討する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 月に3回(主任会・生活指導部会・職員会議)で生徒の情報交換を行い、その際に不登校生現状把握を行う。欠席しがちな生徒に対して、定期的に家庭訪問や家庭連絡を行う。登校できるものの、教室に入りにくい状況にある生徒に対しては、学校登校後に他の生徒との接触を控えた教室整備の体制作りも考える。長期間におよぶ欠席生徒のうち、教員が面会しにくい状況があれば、生徒の状況に応じて関係諸機関と連携する。これらの取り組みによって、新たに不登校になる生徒の数を前年度より減少させる。 	-
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(規範意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の規則を守る意識や学校生活を送るうえでのマナーをわかまえるなど、生徒の規範意識を高める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月初めの全校集会で「服装点検」を実施し、身だしなみを整えることを意識づけする。テスト前一週間に「遅刻防止週間」を実施し、時間を守ることへの意識づけをする。また、委員会活動の一環として生徒も含めた毎週の登校指導や清掃活動、月1回の生徒議会を活用して生徒自身から規則やマナーを守る自助活動の推進を図る。その他、授業時間中の校内巡視など様々な場面で生徒への声掛けを行い、規範意識の向上と器物破損の未然防止・確認に努め 	B

る。	
<p>取組内容⑤【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(悩み事の相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒・保護者の悩み事を相談できる環境を整える。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 友人・学業・身体・SNS・家庭等、多岐に渡る悩み事に対応するため、項目別の悩み調査用紙を学期に 1 回以上実施し、それを元に年に 2 回以上の教育相談を実施する。教育相談の方法については 1 対 1 の形にこだわらず、生徒が安心して話せる環境作りをするため、職員が共通理解できる研修も教育相談前に実施する。保護者への電話連絡や、定期懇談会のやり方を工夫し、保護者の相談に乗れるような時間を作る。また、表面化しにくい家庭における悩み事に対しては、担任や学年教員のみでなく、養護教諭やスクールカウンセラー、元気アップ地域コーディネーターなどと、生徒の状況や要望に応じて連携し、地域・関係諸機関との協力体制を作る。 	C
<p>取組内容⑥【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権教育年間指導計画にそって、人権に関する取り組みを実施する。特に、同和教育、平和教育、特別支援教育、国際理解教育の 4 つを人権教育の柱とし、3 年間でこれらを組織的・系統的に取り組み、人権総合学習の充実を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同和教育……地域産業でもある太鼓・皮革等について学ぶ ● 平和教育……8・6 人権平和登校日、ピースおおさか見学 ● 特別支援教育……車いす体験学習、視覚障がい者による講話等での学習 ● 国際理解教育……ソンセンニム、ゲストティーチャー等による学習 ● 生徒アンケートで「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んだ」について肯定的な回答を 90%以上とする。 	B
<p>取組内容⑦【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな学校行事を通して、集団の中での自分の役割と責任を自覚させる。また、相手を思いやり、優しい心を持って行動できる態度を育てる。特に、校訓である「自律」、「協力」、「創造」を意識させていく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体…体育大会、文化活動発表会、なにわこども人権文化祭、小中交流活動 ● 1 年生……一泊移住 ● 2 年生……校外学習(大阪市内班別行動) ● 3 年生……修学旅行 ● 生徒アンケートで「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んだ」や「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めた」について肯定的な回答を 90%以上とする。 	B
<p>取組内容⑧【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 3 年間で系統的に行うキャリア教育を通して勤労観・職業観を養うとともに、自尊感情を高め、 	C

<p>自己の将来について考えさせる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1年生……専門・専修学校体験講座、職業講話等による学習 ● 2年生……職場体験学習、卒業生講話等による学習 ● 3年生……進路学習、進路懇談 ● 生徒アンケートで「職業について興味を持ち、自分の将来について考える」について肯定的な回答を85%以上とする。 	
<p>取組内容⑨【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個別の教育支援計画を作成することで、「障がい」のある生徒の育ちを支援するとともに、自他を尊重しながらまわりの生徒と共にたすけあい、生きる集団をめざす。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個別の教育支援計画・指導計画をもとに特別支援教育委員会等で検討会を随時行い、情報を交換し、各学年の取り組みをすすめる。生徒アンケートでは、「障がいのある人について思いやることができる」について肯定的な回答を90%以上とする。 	B
<p>取組内容⑩【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 他国の文化にふれることで、自らのアイデンティティを自覚し、多文化共生社会の中で生きていける生徒を育成する。また、さまざまな考えを受け入れる集団づくりをすすめる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際クラブや渡日の子どもたちのための学習会などを週1、2回行う。また、自他の文化を互いに尊重できる集団の育成のための取り組みを、国際理解教育を軸として各学年ですすめる。生徒アンケートで「外国人や外国につながる人のある人を思いやることができる」について肯定的な回答を90%以上とする。 	B
<p>取組内容⑪【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から、「特別の教科 道徳」が完全実施された。道徳の教科書『中学生の道徳』(1～3年生)を通して、様々な「気づき」を促し、学校生活、家庭生活や社会生活において必要とされる行動につなげていく。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本校の子ども像にあるように、「自ら考え、正しく判断し、行動できる子ども」「人を思いやる優しい心で、お互いの人権を尊重し、社会から必要とされる、求められる子ども」の育成に努める。生徒アンケートでは、「道徳の授業を通して、自分を見つめて考えることができる」について肯定的な回答を80%以上とする。 	B
<p>取組内容⑫【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校図書館に機器を導入し、図書館の活性化、バーコード化に向けての準備を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員アンケートの「図書の管理がしやすくなった」に対する肯定的な回答を95%以上にする。 	D

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①について

- 現時点で、全学年合わせて 7 件のいじめ事案を認知している。
- 7 件のうち、3 件は 3 カ月の経過を観察して、聞き取りやアンケートを通じて解消に至っている。
- 4 件については、再発するには至っていないが、現在 3 カ月の目安の経過観察中であり、今後教育相談・保護者懇談会等を通じて確認していく予定である。
- いじめ事案は起こりうるものであるという危機感のもと、引き続き発生した場合には、学年・生徒指導主事・管理職が密に連携をし、心身のケアも含めて、組織としての解消に努めていく。

取組内容②について

- 現時点での暴力行為は 2 件。
- 暴力行為発生時には、多くの教員・養護教諭が連携をし、管理職への報告を行い、心身のケア・指導に努めている。
- 現在、外部と連携するまでの大きな暴力事案は発生していない。

取組内容③について

- 昨年度と同様に不登校生徒の数は多い。
- 新たに不登校となる生徒の数は現段階では把握できないが、減少に向けて、定期的な家庭訪問・家庭連絡に加えて、スクールカウンセラー、別室から始める等の取り組みを進めている。
- 生徒の情報交換会は月 3 回必ず行っている。いじめ事案や暴力行為、その他の大きな要因と不登校が絡む場合には、特に注意が必要なため、見逃すことのないように確認している。

取組内容④について

- 学校評価アンケート(生徒)によれば、93.4%の生徒が規範意識について肯定的に回答している。
- 遅刻防止週間の表彰を行うことで、時間を守ることへの動機付けを行っている。
- 服装不備のある生徒への物品の貸し出し対応は、現在感染拡大防止の観点からできない状態ではあるが、啓発により声掛け対応を進めている。
- 感染拡大防止の観点から対面した形での全校集会を開けていなかったため、先輩の姿勢を見習う等のよい刺激を相互に得にくい状況にあるが、今後の対応について引き続き啓発を行い、生徒間での発信も行っていく。

取組内容⑤について

- 校評価アンケート(生徒)によれば、「悩み事の相談ができる」の質問に 87.7%の生徒が肯定的な回答をしている。
- 校評価アンケート(保護者)によれば、「学校は悩み事を抱えた子どもに対して丁寧に対応している」の質問に 55.6%の保護者が肯定的な回答をしている。また、「分からない」と回答した保護者が、多い学年では 40%以上いる。思春期の子どもが家庭でなかなか悩み事についての話題をしない点も影響していると考えられるが、子どもが悩み事を抱えたときに学校がどのように対応しているかについて、保護者に周知する方法を模索していくことも必要であると感じている。
- 週 1 回の悩みの相談用紙の実施、年に 2 回以上の教育相談体制の構築、保護者とのこまめな連絡交換、悩み事が複雑な場合にはスクールカウンセラーに相談する対応を進めているところである。

取組内容⑥について

- 学校評価アンケートから、「人権や平和・いのちについて考え、それらを守っていくことの大切さを学んでいる」につ

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>いては全学年の 94.0%が肯定的に考えている。1 年生は 95.0%、2 年生は 90.2%、3 年は 97.8%となっている。昨年よりも全学年の内容が 4.0%増えているが、6.0%が否定的にとらえているので、今後もていねいに取り組みを続けていく。</p>
<p>取組内容⑦について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価アンケートから、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できる」が全学年で 92%で、学年ごとでは 1 年生は 96.7%、2 年生は 85.0%、3 年は 93.3%となっている。しかし 8.5%が否定的にとらえている。学校生活の中において人を傷つける言動などの場面もある。その都度指摘して反省をうながし、自尊感情を育てていく一方で、時間をかけて他者を思いやれるような取り組みをすすめていく。
<p>取組内容⑧について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価アンケートから、「いろいろな職業について興味を持ち、自分の将来や生き方について考えた」は全学年の 72.7%が「よくあてはまる。ややあてはまる。」と肯定的に考えている。1 年生は 81.0%、2 年生は 60.7%、3 年は 78.3%となっている。昨年と同様、他の取組内容よりも 20%近く低いので、将来を見据えた進路を考える取り組みを検討していく。
<p>取組内容⑨について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価アンケートから、「障がいのある人について思いやれることができる」と肯定的に考えている生徒が全学年で 95.8%で、昨年より 6%上昇している。1 年生では 100.0%、2 年生は 91.7%、3 年生は 95.7%となっている。まだ、人を傷つける発言もあり、理解をすすめるための取り組みを進めていく。
<p>取組内容⑩について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価アンケートから、「外国につながるのある人を思いやることができる」と答えている生徒が全学年で 94.6%である。1 年生は 98.3%、2 年生は 93.3%、3 年は 91.3%となっている。週 1 回の国際クラブや渡日生徒への学習会がお互いの理解につながっていると考えられる。ここ最近、外国にルーツのある生徒が増加している。難波中学校外国人教育基本方針をもとに、多文化共生を大切にしながら、文化活動発表会などの機会をいかして、生徒の理解を深められるように進めていく。
<p>取組内容⑪について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度から道徳が「特別の教科 道徳」として全面実施されている。「道徳の授業を通して、自分を見つめて考えることができる」の項目においては、全体では 89.2%が肯定的に考えており、昨年よりも 5%上昇した。1 年生は 96.7%、2 年生は 83.3%、3 年は 87.0%となっている。学年の状況に応じた教材を選び、活用していく必要がある。教科書の読み物資料を活用して、生徒間の対話を通して多くの気づきから行動できる生徒の育成をはかっていく。
<p>取組内容⑫について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 夏季休業期間中に図書管理用の PC やスキャナ等機器や蔵書管理ソフトを導入し、現在、図書館補助員と連携し、教職員や文芸部員も総動員してバーコード化を進めているが、現時点ではまだ完了していないため、教員アンケートの「図書の管理がしやすくなった」に対する肯定的回答は 23.1%(目標 95%以上)にとどまっている。
<p>次年度(今後)への改善点</p>

大阪市立難波中学校 令和２年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準

A: 目標を上回って達成した

B: 目標どおりに達成した

C: 取り組んだが目標を達成できなかった

D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標						達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】						
全市共通目標						
● 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。						
1 年生	3 教科	R1		R2		
2 年生	3 教科	R1	0.87	R2		
3 年生	5 教科	R1	0.82	R2	実施せず	
● 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。						
1 年生	3 教科	R1		R2		
2 年生	3 教科	R1	34.0	R2		
3 年生	5 教科	R1	46.7	R2	実施せず	
● 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。						
1 年生	3 教科	R1		R2		
2 年生	3 教科	R1	17.0	R2		
3 年生	5 教科	R1	22.2	R2	実施せず	
● 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。						
R1	70.1%	R2	81.3%			
● 体育の授業で、全身運動や柔軟性を高める活動を毎時間行い、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし」、「長座体前屈」で大阪市平均に近づけ、体力合計点を向上させる。※()内は平均						
上体起こし	男子	R1	24.67(27.39)	R2		
	女子	R1	24.22(24.15)	R2		
長座体前屈	男子	R1	37.67(41.41)	R2		
	女子	R1	43.50(45.67)	R2		
体力合計点	男子	R1	32.71(41.04)	R2		
	女子	R1	42.91(50.13)	R2		
学校園の年度目標						

- 新体力テストを実施し、昨年度の体力合計点を維持・向上させる。

体力合計点	男子	R1	32.71	R2	
	女子	R1	42.91	R2	
- 専門的な知識を持った講師を外部から招くか、特別授業の監修を受け、食育と保健関係の特別授業を年 3 回以上実施する。

R2	
----	--
- 歯磨き指導に力を入れ、令和 2 年度末の保護者・生徒アンケートにおける「毎日歯磨きをしている」の項目について、肯定的な回答を 60%以上にする。

R2	%
----	---
- 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活をしている」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 70%以上にする。

R2	%
----	---

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> ● 国語・数学・英語において、学校力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、複数人体制での授業を充実させる。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 国語・数学・英語において、全学年とも年間を通じて 2 人体制もしくは 3 人体制で授業を実施し、計画的に習熟度別少人数学習や T.T.を行う。 	A
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の工夫・改善、放課後学習・宿題等を行わせることで個に応じた指導の充実を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査(生徒アンケート)における「日々の学習において宿題や予・復習の家庭学習を行っている。(放課後やテスト前の学習会への参加を含む)」という問いに対して、肯定的な回答を前年度以上にする。 	A
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> ● 得点低位層に対する補充学習を行い、基礎・基本の学習の徹底を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 定期テスト・ステップアップテストにおける得点低位層に対し、各教科が各学年と連携して補充学習を行う。また、登校前の朝の時間に自習室を開放し、自学自習を促す。 	C
取組内容④【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> ● 各学年で家庭学習に向けた取り組みを推進し、学習習慣を定着させる。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 1 年生の初めに配付する「学習の手引き」や 2・3 年生の年度当初のオリエンテーションで、予習・復習等の家庭学習の方法を、年間を通じて継続的に指導する。 	C

<ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査(保護者アンケート)における「学校は宿題等の学習教材を適切に子どもに出すように努めている。」という問いに対して、肯定的な回答を前年度以上にする。 	
<p>取組内容⑤【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校力 UP コラボレーターや学びサポーターや学校元気アップ事業、人権教育部と連携し、放課後、テスト前、長期休業中の学習会を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多目的室や図書室等の校内の施設を自習室として計画的に開放する。 	A
<p>取組内容⑥【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究授業や教員間の相互授業参観を行い、教員の授業力をのばす。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相互授業参観週間を 2 学期に行う。年 4 回の研究授業を行う。 ● 授業アンケートの「授業の内容が分かるようになっていきますか」に「そう思う」と答える生徒の割合を 52%以上にする。 	A
<p>取組内容⑦【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校全体でのユニバーサルデザインの授業や ICT 機器の活用により、生徒の学習理解の充実を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内研修会を実施し、学校全体でユニバーサルデザインの共通理解を図る。 	B
<p>取組内容⑧【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「主体的・対話的な学び」を取り入れた授業を推進し、また、ICT 機器の活用を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ学習や班学習、ジグソー法などの手法を授業で積極的に取り入れ、生徒が発表、報告、話し合いする機会を多くつくる。 ● 生徒アンケートで、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ● 電子黒板、タブレット端末等の ICT 機器を活用した授業を計画的に行い、授業アンケートで、「ICT 機器が活用されている」に対して、肯定的に解答する生徒の割合を 70%以上にする。 	A
<p>取組内容⑨【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ホームルーム教室等の整備を行い、ICT を活用した教育を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員アンケートの「ICT を活用した教材の導入がしやすくなった」に対する肯定的回答を 95%以上にする。 ● 生徒アンケートの「ICT 機器を使った授業はわかりやすい」に肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。 	

取組内容⑩【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 適切な運動習慣を確立させ、自己の状況に応じた体力の向上と心身の調和的発達を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 新体力テストに向けて授業ではトレーニングを実施し、体力テストを実施する。 	-
取組内容⑪【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 学校全体や各学年等での実施計画に基づき、学校行事の充実を図る。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 昼休みのボール貸出を実施し、運動上での活動を活性化する。 各学年において、球技大会などのスポーツ活動を年 2 回行う。 	-
取組内容⑫【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 健康に対する専門的な知識を知り、意識を高める。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 専門的な知識を持った講師を外部から招くか、特別授業の監修を受け、食育と保健関係の特別授業を年 3 回以上実施する。 	B
取組内容⑬【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 歯・口の健康に課題をもつ生徒に対して指導を行い、自らの健康課題を解決しようとする意識を高める。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 歯科健診での「歯垢の状況」での「歯垢の付着なし」の生徒の割合を 70%以上にする。 歯科の受診率を 10%向上する。 	C
取組内容⑭【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> 学校生活及び校外生活における保健・安全管理に努める。 指標 <ul style="list-style-type: none"> 毎月保健だよりと食育だよりを配付し、生徒及び保護者に健康への意識を浸透させる。 学校保健委員会を年間 2 回、安全衛生委員会を年間 3 回実施し、専門家から定期的にアドバイスを受ける。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①について <ul style="list-style-type: none"> 国語科においては、どの学年も 1 学期から 2 人体制で授業を行っている。文法や書写の時間にはクラスを 2 分割し、少人数で授業を行っている。これによって、文法の授業では個に応じた指導が可能となり、書写の授業では 1 人 1 人に目が行き届き、十分な準備を持って指導にあたることができている。 数学科においては、どの学年も 1 学期は 2 人体制で授業を行った。2 学期からは、2 年生はすべての時間、1・3 年生は週に 1 時間、学年を 3 分割した習熟度別の授業を行っている。どの教室も指導する数学科の教員 1 人のほかに、学びサポーターや学年からのサポートが加わって、2 人体制、計 6 人で手厚い指導と支援を 	

行っている。

- 英語科においては、どの学年も 1 学期から 2 人体制で授業を行っている。3 年生は 2 学期から週に 1 時間、クラスを 2 分割し、文法の少人数授業を行っている。また、学びサポーターも加わって、最大 3 名で授業を展開している。
- 以上の取り組みを行い、学校評価アンケートでは、「国語・数学・英語において、学力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、複数人体制での授業が充実している」という設問に対して、肯定的に答えた教職員の割合は 100%となった。国語・数学・英語の 3 教科に限らず、他の教科でも入り込みを行い、複数人で手厚い指導ができています。

取組内容②について

- 学校評価アンケートでは、「日々の学習において宿題や予・復習の家庭学習を行っている。(放課後やテスト前の学習会への参加を含む)」という設問に対して、肯定的に答えた生徒の割合は 71.1%で、前年度の 54.4%から大幅に上昇し、目標を達成している。
- 学年別に結果を分析すると、1・3 年生は 8 割を超える生徒が肯定的な回答(1 年生: 85.0%、3 年生: 80.0%)をしているのに対し、2 年生は半数(50.8%)にとどまった。昨年度の 1 年生は 48.3%の生徒が肯定的な回答であったことから、家庭学習を行ったり、学習会へ参加したりしている生徒の割合はこの 1 年間でほとんど変わっていない。
- 「定期テストに加えて、授業内で小テストや単元テストを実施し、これに向けての放課後学習や課題の提示を行うことで学習習慣の定着が図られている」という設問に対しては、96.3%の教職員が肯定的な回答をした。しかし、「各学年で家庭学習に向けた取り組みを推進し、学習習慣が定着している」という設問に対しては、48.0%にとどまった。今後、各教科で行っている宿題や補充学習などの取り組みを、学年だより等で取り上げ、教科と学年が連携して、さらなる学習習慣の定着を図る必要があると考える。

取組内容③について

- 本年度より 4 科のステップアップテストを実施する予定であったが、4～5 月にかけての臨時休業により、実施していない。
- 多くの教科で、授業内の時間に小テストや確認テストを行っている。学習内容が定着していない生徒は放課後に再テストを行ったり、課題を課したりするなどして学力の定着を図っている。
- 3 年生においては、定期テスト前に朝の学習会を行い、多くの生徒が自主的に参加した。
- 本年度より、定期テストについては、昨年度の最終反省にあったように、4 月の教科会で柔軟な対応をお願いしたところ、音楽科と美術科で 30 分間のテストが実現した。今後、ステップアップテストだけでなく、定期テストを含めた考查の在り方を見直し、生徒の学習意欲の向上、家庭における学習習慣の定着、ひいては学力の向上へとつながるように、長いスパンでの検討が必要だと考える。

取組内容④について

- 学校評価アンケートでは、「学校は宿題等の学習教材を適切に子どもに出すように努めている」という設問に対し、肯定的に答えた保護者の割合は 72.8%であった。これは昨年度の 84.0%を下回っており、目標は達成できていない。昨年度の結果が非常に高いことから、これを上回るには現在の取り組みを見直す必要がある。
- 今年度はクラスを 2 分割した分散登校で授業がスタートしたため、1 年生には全体のオリエンテーションを経てから「学習の手引き」を配付した。2, 3 年生においても、初回授業時に勉強の仕方、予・復習の仕方、家庭学習について、評価の方法などについて、丁寧に説明を行った。しかし、前年度の最終反省にもあったように、「学習の手引き」を継続して活用することはできていない。「学習の手引き」の作成が家庭学習の定着につながって

いないため、見直しの必要がある。

- また、結果を学年別にみると、肯定的な回答をした保護者の割合は、1 年生 63.2%、2 年生 76.4%、3 年生 80.0%と、学年が上がるにつれて高くなっているが、どの学年も昨年度の結果を上回ることとはできていない。2, 3 年生においては、日々の宿題や週末課題等が定着し、保護者もその存在を認知しているが、1 年生においては認識されている保護者は少ないと考える。昨年度の数値を上回るためには、学年だよりや学校ホームページを活用するなどし、学習課題の存在を保護者に認識してもらう必要がある。また、2 年生においては、保護者が肯定的な回答をしているにもかかわらず、家庭学習を行っている生徒の割合が低い(学校評価アンケート「日々の学習において宿題や予・復習の家庭学習を行っている。(放課後やテスト前の学習会への参加を含む)」に肯定的に回答した 2 年生の割合:50.8%)。こちらも併せて保護者への協力をお願いする必要がある。

取組内容⑤について

- 今年度は夏季休業中の学年別の補習や、学校元気アップ事業による学習会は実施しなかった。しかし、例年週に 2 回行っていた放課後学習会を今年度は週 3 回実施している。また、テスト前の学習会も実施し、学校力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、多くの生徒を受け入れることができている。
- 学校評価アンケートでは、「学校力 UP コラボレーターや学びサポーターと連携し、学校元気アップ事業と連動させて、放課後学習会、テスト前学習会、長期休業中の学習会が行われている」という設問に肯定的に答えた教職員の割合は 100%であった。

取組内容⑥について

- 9 月から全教員を対象に、相互授業参観を実施している。授業の実施日を決定し、参観者を事前に割り振ることで、計画的に参観を行うことができている。今年度は「タブレット機器の活用」をテーマにした。多くの授業でタブレット機器を活用して授業が展開され、グループ学習、プレゼン発表、写真や動画を撮影するなど、様々な工夫が見られている。
- 1 学期には 3 年生のクラスで数学の研究授業を実施した。「17 段目の秘密」という題材を扱い、生徒たちが意欲的に課題に取り組んでいた。放課後の授業検討会では、KJ 法によって授業のよかったところと改善点をまとめ、より良い授業づくりについて、教職員全体で活発に議論を交換することができた。
- 授業アンケートの「授業の内容が分かるようになっていきますか」という設問には、61.4%の生徒が「そう思う」と回答しており、目標の 52%を上回っている。今後も教員の授業力を高める施策、タブレット機器や大型ディスプレイなどの環境の整備を進め、より分かりやすい授業が展開できるように取り組みを進める。

取組内容⑦について

- 校舎や教室の掲示物にユニバーサルデザインフォントを利用したり、職員室への入室の仕方、廊下の進行方向を明示するなどし、生徒が過ごしやすい環境づくりに努めている。
- 多くの授業で、はじめに「学習のめあて」を提示し、授業で何を学習するのかを確認したうえで授業を進めている。授業アンケートでは、「授業の最初にその授業の目標が示されている。」という設問に、94.5%の生徒が肯定的な回答をした。
- ICT 機器の活用については、「取組内容⑧」に記載している。
- 以上の取り組みにより、学校評価アンケートでは、「学校全体でのユニバーサルデザインの授業や ICT 機器の活用により、生徒の学習理解の充実が図られている」という設問に対し、96.2%の教職員が肯定的な回答をしている。

取組内容⑧について

- 学校評価アンケートで、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に対し、81.3%の生徒が肯定的な回答をした。これは、前年度の 70.1%を上回っており、目標を達成している。
- 授業アンケートで、「ICT 機器が活用されている」という設問に対し、83.0%の生徒が肯定的な回答をし、目標の 70%を上回っている。1 学期に ICT 機器を使用できなかった教員も、2 学期の相互授業参観でタブレット機器を授業に取り入れて授業を行った。2 学期以降更なる活用が期待される。
- 今年度から、40 台あるタブレットのうち、10 台を職員室で保管するようにした。これによって、タブレットの「ちょっと使い」が可能になった。貸し出し用の接続コネクタも職員室で管理し、ICT 機器が使いやすいように工夫している。学校評価アンケートでは、「ICT を活用した教材の導入がしやすくなった」という設問に、84.6%の教職員が肯定的な回答をした。

取組内容⑨について

- 今年度からのブロック支援予算で整備する予定であったが、その中身が戦略予算の内容と大幅に変更があり、実施の見込みが立たないことから見直しを行い、この項目は削除した。

取組内容⑩について

- 今年度は学校休業の期間が長く、新体力テストを実施することができていない。秋頃の実施を目指し日々のトレーニングは積み重ねているが、新体力テストを実施できるかは授業時間数との兼ね合いでむずかしいところもある。

取組内容⑪について

- コロナウイルス感染予防対策として昼休みの活動を制限し、衛生面に配慮した給食の時間として取り組んでいるが、ボールを使つての活動は実施していない。球技大会についても、1・2 年生については年間 2 回の実施に向けた計画を立てているが、3 年生は進路指導の充実を考えると実施がむずかしい。

取組内容⑫について

- 9 月に 1 年生を対象に、歯科校医による「歯と口の健康教室」を実施した。
- 今後、助産師さんによる性に関する講話(3 年生)等を予定している。

取組内容⑬について

- 学校評価アンケートでは「毎日歯を磨いている」という設問に対して、肯定的に答えた生徒の割合は 97.0%、保護者の割合は 96.7%と高い割合となっているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の歯科検診はまだ実施できておらず、むし歯や歯垢の状況は把握できていない。
10 月末に予定している歯科検診の結果をみて、受診勧告や個別の指導を実施していく予定である。

取組内容⑭について

- 学校評価アンケートの「学校は子どもの健康管理のために保健だよりや食育だよりを配布している」という設問に対して肯定的に答えた保護者の割合は 93.4%である一方、「毎月配布される、保健だよりと食育だよりを読んでいる」という設問に対して肯定的に答える生徒の割合は 48.8%にとどまっている。昨年度(34.9%)よりは改善しているが、約半数の生徒は読む習慣がないという点は今後の課題である。
- 1 学期に第 1 回安全衛生委員会を実施した。2 学期には第 1 回学校保健委員会を実施し、健康診断の結果や、新型コロナウイルス感染症による学校休業が明けてからの生徒の様子について話し合う予定である。

次年度(今後)への改善点

--